

## 第1回宝くじ問題検討会議事概要

- 1 日 時 平成22年7月7日（水） 10時～12時
- 2 場 所 総務省10階総務省第1会議室
- 3 出席者 神野会長、木内委員、佐藤委員、中村委員、松本委員、佐竹  
秋田県知事、矢田神戸市長、岡村川口市長、汐見井手町長
- 4 議事次第
  - (1) 開会
  - (2) 会長挨拶
  - (3) 議事
    - ①資料説明
    - ②意見交換
- 5 議事の経過
  - 神野会長より、挨拶及び出席者の紹介があった。
  - 神野会長より、検討会の趣旨について説明があった。
  - 総務省より、宝くじの歴史、宝くじの制度及び行政刷新会議ワーキンググループ事業仕分けの評価結果について、全国自治宝くじ事務協議会事務局より、宝くじの発売事務の現状等について説明を行い、その後質疑及び自由討議が行われた。

(以下、質疑及び自由討議)

- 宝くじ問題検討会の役割は、一定の結論を出して総務大臣へ答申することにあると思うが、宝くじの発行の主体は地方団体（都道府県と政令市）であり、今回の検討テーマの多くは、総務省が決定できるものではなく、最終的には知事会・指定都市市長会や市長会・町村会が決めるべきもの。
- 事業仕分けは、現在の普及宣伝事業について、地方団体側が適切にチェックしているのか、今の時代の普及宣伝として効率がいいのか、という議論であったと理解している。地方団体の財源なので、効率のいい本当に意味のある使い方ができるよう改善していくべき。
- 普及宣伝事業は、宝くじの普及宣伝と地方団体の地方団体間の収益の調整（均てん化）の2つの役割を担っている。その他、収益率なども含め、諸外国の状況はどのようになっているか調べてみる必要がある。

- 普及宣伝の再委託をやめて、全地方団体が予算化して各関係団体に助成する、という方法は逆に膨大なコストがかかる場合がある。内容によっては、地方団体側として必要ならば、直接助成した方が事務的には経費節減になることもある。
- 宝くじの間接経費の部分について、それが合理的なのか、今の時代に合っているのかなど、地方六団体を含めて、議論すべき。
- 高齢化社会の進展により、医療・福祉の問題は地方にとって非常に重要な案件。宝くじの普及啓発の一環として、医療・福祉関係の車両購入に対する助成が行われており、普及宣伝事業については、内容そのものについてどうか、という評価をすべき。
- 宝くじについては、地方の財政という観点とあわせて、国民の健康・医療・福祉の問題にも目を向けていくべき。
- 宝くじは、公債が消化困難な状況において、偶然性に基づく利得を認めて消化を図らないしは過剰流動性を吸収する、という目的ではじまっている。外国と違った日本独特なものかどうかだが、そもそもそこが出发点だということを考えておく必要がある。
- 日本の場合には公債消化から始まっているので、課税をしておらず、一方外国は課税をしている場合があり、日本とは目的が違っている可能性がある。
- 民間企業でいえば、個々の商品について行うのが「宣伝」で、施策の理解を求めるのは「広報」である。「普及宣伝事業」という現在の名称は、言葉を考えた方がよい。
- アメリカのマサチューセッツ州は、基礎自治体に対して一定のフォーミュラで収益金を財政力の弱いところに手厚く配分している。宣伝を絡めることはせずに均てん化を行っている。
- この先、議論を進めて行くに当たっては、焦点を絞り込んでいく必要がある。宝くじの売上げが、「事業仕分け」の影響もあってか、減少している中、普及宣伝費などの間接経費を見直すことによって、賞金（当せん金）や収益金を増加させる方策を考えていくべき。

- 渡辺副大臣からは、当面やっていただく課題の検討を通じて、地方自治体の自主財源を確固たるものにするというのが全体の意識なんだという話をいただいているので、そういうスタンスで検討していく。
- 複雑であると指摘された普及宣伝費の流れについて、すっきりさせる必要がある。
- 各助成先について普及宣伝費が流れるようになった経緯、普及宣伝費が各団体でどのように活用されて、どのように普及事業に表現されているか、チェックしていく必要がある。
- 効果のある普及宣伝事業かどうか、事務的に精査し、地方六団体でルール付けをどうするのか、ということを議論する、そのきっかけ作りをこの場で議論すべき。
- 全国自治宝くじ事務協議会では、普及宣伝事業について、助成対象が地方団体、公益法人であることから、出納のチェックのみで、事業内容のチェックまではしてこなかった。今後、検証PTを立ち上げ、議論していくこととしている。
- 普及宣伝事業の趣旨は、宝くじの購入することによって、公共サービスが充実することで国民に還元されている、というのを周知することである。
- 普及宣伝費を各団体に配分するときどのように行っているのか、日本宝くじ協会や自治総合センターに、配分の考え方についてヒアリングをした方がよい。

以上